



中藤っ子 LOVERS

令和6年度 No. 3
 福井市中藤小学校だより
 発行日 令和6年 6月3日(月)
 〒910-0837 福井市高柳3-3001
 TEL:54-3823 FAX:54-3874

新緑の5月から 深緑の6月へ

令和6年度が始まって2ヶ月が経ちました。季節は、春から初夏、そして夏へと移ろい、時の流れのはやさを感じます。



去る5月19日には心地よい風が吹く薄曇りの空の下、春季校内体育大会(中藤島地区区民体育大会)が行われました。児童は、整然と並んで開会式に参加し、競技に入ると、徒競走や遊技走等学年種目をカ一杯取り組んでいました。特に6年生は、大会運営の補助員として準備係や決勝係、整列係等として役割を果たし、一般の種目もともに盛り上がり、盛況のうちに閉会式を迎えました。

能登半島での地震では、救援物資が滞る中、地域が助け合い、協力しながら乗り越えたケースを鑑みると、児童にも、地域を生かし、地域から学ぶ活動を通して、地域を大切に思い貢献しようとする心を育てていきたいと思ひます。

今後とも、ご家庭や地域の皆様のご協力をお願いします。

(勝木)



ある日の出来事から

いろんな立場で考えられるように

～ 4年生総合「福祉学習」 ～

4年生の総合的な学習の時間では、「福祉」について学びます。福祉と言っても、児童はピンときていない様子。そこで、4月30日、社会福祉協議会の方から、「福祉とは何か」を伺い、「みんなで助け合って幸せをつかっていくこと」と教えていただきました。本校では、いろんな立場の人が暮らしやすくするために、自分たちができることは何かを考えることが、この学習のねらいと捉えています。

今後、いろいろな立場の人の目線で、福祉について学んでいく予定です。



1年生をむかえて、ふれあいました

～ 2年生 「なかよし会」 ～

5月1日、体育館で2年生が1年生を迎えて「なかよし会」を開きました。まず、2年生が音楽で習った「こいぬのビンゴ」の歌をプレゼントしました。次に、学校クイズで学校の紹介をしたり、「なべなべ底抜け」やじゃんけんなどで遊んだりしました。なかよしグループで自己紹介をした後、アサガオの種子をプレゼントして終わりました。

2年生は、お兄さん、お姉さんぶりを発揮していました。



龍のように 藤の花のように

～ 全校 なかよしタイム ～

中藤小学校で行っている異学年交流活動は「なかよしタイム」といいます。5月8日に、1回目がなかよしグループの教室で行われました。まず、『龍のように元気よく 藤の花のように優しく みんななかよし なかふじの子』と、児童会スローガンをみんなで発表し、自己紹介をしたり、なかよしペア(6年生と1年生 5年生と3年生 4年生と2年生)で手作り名刺の交換をしたりしました。残った時間は、じゃんけんゲームなどで楽しみました。



司会進行が初めての6年生のリーダーでしたが、緊張しながらもしっかりやっていました。今回の課題は、次の機会に乗り越えてくれるでしょう。1年間、楽しい活動になることを願っています。

灯明寺中学校の先輩とともに

～ 小中連携あいさつ運動 ～

5月9～10日の2日間にわたり灯明寺中学校の生徒によるあいさつ運動がありました。玄関に立ってあいさつで迎えてくれる中学生を見て、元気なあいさつで返したり、おどおどあいさつしたり、急いで玄関内に駆け込んだり、と十人十色の児童の姿でしたが、賑やかな朝のひとつときになったことは間違いありません。これからも中藤小学校が明るいあいさつでいっぱいになるといいです。



備えあれば、心配ご無用

～ 避難訓練(第1回)・引き渡し訓練 ～

5月10日、地震や火事が起こった際の緊急避難の流れと経路を再確認するために、避難訓練を行いました。児童は、まず、嶺北地方に巨大地震が襲ったという想定で、緊急地震速報とともに、とっさに机の下に潜りました。約4分間経過後、今度は、給食室から火事発生となり、児童は、放送の指示で校庭まで避難しました。

避難後の講評で、訓練を真剣に取り組む意味や、日頃の行動の大切さ、命を守る訓練だからこそ100点満点が必要との話をしました。

同日、地震や大雨等の災害発災後に、児童を保護者に、確実に引き渡し手順を確認するために、引き渡し訓練を行いました。今回は、室内で引き渡し場面を想定し実施しました。前半は教室で、児童の数が少なくなった後半からは体育館で引き渡ししました。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。



読書好きの児童を育てたい!

～ 図書ボランティア活動 ～

5月14日から、今年度の図書ボランティア活動が始まりました。この日は5年生教室での読み聞かせです。読んだ本の題名は「みずいろのマフラー」「たったひとつの…」 「落語」「かえるをのんだととさん」など、学級によって違いましたが、ボランティアさんの話では、「よい笑顔で聞いてくれて、読んでいて楽しかった」「とても静かに聞いてくれました」など、聞いている児童も読み聞かせるボランティアさんも楽しい時間が流れたようです。聞く力、想像する力を高める時間になったのではないのでしょうか。ボランティアさんには、読み聞かせの他、本の修理や壁面の飾り付けなどをやっていただく予定です。



校長室から

PEP TALK～子どもの可能性を引き出す言葉の力～

ペップトークとは、激励のため、ポジティブな内容を短くわかりやすい言葉で伝えるメッセージをいいます。元々はアメリカで始まったもので、監督が選手を励ますかけ声、選手が自身を鼓舞したり集中力を高めたりするための言葉かけです。最近では、「憧れるのをやめましょう」で始まる、2023年WBC(ワールドベースボールクラシック)決勝戦前の大谷翔平選手の言葉がそれにあたると言われています。ただ、ペップトークは、単に勢いがある、短いトークではありません。ペップトークを使うには、5つの大切なルールがあるのです。

- 1 ポジティブな言葉を使う …「～しないように」ではなく、「～しよう」 言葉はイメージを現実化する
「ミスするな」は、「ミス」を現実化してしまう
「走るな」→「歩こう」 「嘘つくな」→「正直に話して」など
- 2 短い言葉を使う …一瞬で、感情に影響をあたることが目的。長々とした説明はNG
緊張している人に長い言葉かけは、不安を煽りがち
- 3 わかりやすい言葉を使う …相手に伝えるためには、誰もがすぐ理解できる分かりやすい言葉で伝える
普段使っているような言葉でシンプルに使えるのがコツ
- 4 一番言ってほしい言葉を使う…自分が言いたい言葉より、相手が言ってほしいと思う言葉で伝える
やる気のスイッチや求める言葉は人によって違う
- 5 心に火をつける本気の関わり…「相手に本気で成功してほしい」といった気持ちがあることと、信頼関係があることが前提

言葉は使い方一つで、人を喜ばしたり悲しませたりします。ペップトークにチャレンジしてみませんか？